

夏 剛 教授 略歴・著述目録

略歴（学歴・職歴・学内行政及び研究組織役職・学会所属等）

1954 年 7 月 25 日	中国・上海市で出生
1961 年 9 月～62 年 8 月	上海市楊浦区打虎山路第 1 小学
1962 年 9 月～68 年 8 月	上海市楊浦区四平路第 2 小学（卒業「文化大革命」初期の全国学校閉鎖に由り 1 年遅延」に至る）
1968 年 9 月～71 年 8 月	上海市楊浦区鞍山中学（卒業に至る）
1971 年 9 月～12 月	就職準備の為の自宅待機
1972 年 1 月～73 年 12 月	「文革」の「知識青年上山下郷（下放）」運動 ^{キャンペーン} に由り、黒龍江省伊春市南岔 ^た 林業局威嶺 ^た 営林所に勤務
1973 年 12 月～78 年 3 月	黒龍江省電力建設公司第 1 工程処に勤務（210 発電所建設現場 [伊春地区某所の山奥] → 哈爾濱 ^{ハルビン} 市動力区）
1978 年 3 月～82 年 1 月	哈爾濱 ^{ハルビン} 黒龍江大学日本語学部日本語・日本文学専攻（卒業・学士号取得に至る）
1982 年 1 月～84 年 12 月	[北京] 中国社会科学院研究生院（大学院）外国文学学部修士課程（3 年制）日本近・現代文学専攻（終了・文学修士号取得 [85 年 5 月 30 日] に至る）。
1984 年 12 月～92 年 2 月	[北京] 中国社会科学院外国文学研究所東南・東北 ^{アジア} 文学研究室助理研究員（専任講師格）
1987 年 6 月～88 年 6 月	日本国際交流基金特別研究員 ^{フェローシップ}
1987 年 6 月～89 年 3 月	京都大学人文科学研究所招聘外国人学者
1987 年 9 月～92 年 2 月	[京都] 国際日本文化研究センター（文部省大学共同利用研究機関）共同研究員（「日本文学と“私”」共同研究班 [代表者＝中西進] 所属）
1987 年 10 月～現在	[京都] 現代中国研究会会員
1988 年 12 月～2013 年 12 月	[東京] 俳諧・連歌結社「あした」（主宰＝宇咲冬男）客員
1989 年 4 月～92 年 3 月	京都工芸繊維大学工芸学部専任（任期制）助教授（「一般教養等・文学」担当）
1989 年 10 月～現在	日本ペンクラブ会員

1989 年 12 月～93 年 12 月	日本近代文学会会員
1991 年 4 月～92 年 3 月	京都芸術造形大学芸術学部非常勤講師（一般教養・文化担当）
1992 年 4 月～96 年 3 月	〔京都〕立命館大学国際関係学部常勤（任期制）外国人講師（「中国語」担当〔他に法学部・産業社会学部・経営学部・全学副専攻科目〕）
1992 年 4 月～97 年 3 月	京都精華大学人文・美術学部非常勤講師（「アジア研究」「日本文学概論」担当）
1996 年 4 月～97 年 3 月	立命館大学言語教育センター非常勤講師（「中国語」担当）
1996 年 4 月～97 年 3 月	〔京都〕同志社女子大学学芸学部非常勤講師（「中国語」担当）
1997 年 4 月～2001 年 3 月	立命館大学国際関係学部助教授（学部・国際関係研究科・衣笠 キャンパス 校庭副専攻「初修・専門中国語」，学部「国際関係資料〔和文〕 講読」「アジア研究」，文学部「地域と移動 旧華人文化圏論」 等担当）
1997 年 4 月～2005 年 3 月	立命館大学国際言語文化研究所課題別研究会「比較文化研究会」 代表者
2000 年 10 月～01 年 3 月	〔京都〕龍谷大学経済・経営・法学部非常勤講師（「アジア研究・ 現代中国事情」担当）
2001 年 4 月～20 年 3 月	立命館大学国際関係学部教授（学部・国際関係研究科・衣笠 キャンパス 校庭副専攻「初修・専門中国語」「東アジア研究」「比較社会論」 「東アジア文化関係論」等担当）
2001 年 4 月～03 年 3 月	立命館国際関係学部学生主事
2002 年 1 月～13 年 12 月	アジア政経学会会員
2002 年 4 月～05 年 3 月	立命館大学国際地域研究所専任研究員
2003 年 4 月～04 年 3 月	立命館大学中国語部会部会長
2004 年 4 月～06 年 3 月	立命館大学国際地域研究所プロジェクト研究「東北アジア共同 体の基礎条件に関する研究：朝鮮半島をめぐる日中韓朝口協力を を中心に」（2004～05 年度，代表者＝松野周治）幹事。
2007 年 4 月～10 年 3 月	立命館孔子学院副院長
2009 年 3 月～現在	山崎豊子文化財団（13 年 4 月より一般財団法人）理事
2010 年 4 月～12 年 3 月	立命館孔子学院学院長代理
2020 年 4 月～	立命館大学名誉教授
2020 年 4 月～	立命館大学特別任用教授

受賞歴

1. 第1回中央国家機関青年学術研究業績競作（〔北京〕中国共産主義青年団中央国家機関委員会・国家科学技術奨励工作辦公室〔事務局〕・『中国社会科学』〔中国社会科学院機関誌〕・『中国科学』〔中国科学院機関誌〕共催）優秀論文3等賞（「当代啓示録——高行健話劇世界面面觀」〔後掲〕に由る），1986年9月。
2. 『当代作家評論』誌（〔瀋陽〕『当代作家評論』雑誌社）1984～86年優秀論文3等賞（「潮汐の騒動——1984年中篇小説巡礼」〔後掲〕に由る），1987年2月，同誌同年第2期（号。3月）発表（128頁）。

著書・訳書

1. （共訳）川端康成小説選集『花的圓舞曲』，〔長沙〕湖南人民出版社，1985年4月。
（単訳）『名人』（筆名＝求道），551～664頁。原作＝川端康成『名人』（長篇，新潮文庫（〔東京〕新潮社），1962年，5～165頁）。
2. （共著）童志剛・張小東・夏武全主編（編集主幹）『融合与超越——新时期文学与外国文学』，〔武漢〕長江文芸出版社，1989年3月。
（執筆）「中国的“劫後文学”与日本的“戦後文学” 十年：世紀の衝刺」，40～59頁。
3. （共著）中国社会科学院外国文学研究所編『外国文学研究集刊』第12輯，〔北京〕中国社会科学出版社，1988年1月。
（執筆）「通向成熟之路——論野間宏」，406～447頁。
4. （共著）柳鳴九主編『西方文芸思潮論叢 意識流』，中国社会科学出版社，1989年12月。
（執筆）「日本文学中的“意識流”」，229～275頁。
5. （共著）竹内實編『京都大学人文科学研究所研究報告 中国近現代文学論争年表』，〔京都〕同朋舎，1992年10月。
（共同執筆）辻田正雄・萩野脩二・夏剛「1985 文学」，「下（1949～1989）」，894～935頁。
6. （共著）中西進編『日本文学における「私」』，〔東京〕河出書房新社，1993年12月。
（執筆）「『名人』にみる三重の“私”と川端康成の“実”——古典的，道一禪的，“反射描法”的な読解の試み」，285～314頁。
7. （共著）日本記号学会編『多文化主義の記号論』（記号学研究16），〔平塚〕東海大学出版会，1996年3月。

- (執筆)「音幻・雑色・越境・辺鼓(抄)——“亜細亜圏”周航暢想」, 77～86 頁。
8. (共著) 福岡ユネスコ協会編『世界が読む日本の近代文学Ⅱ』, [東京] 丸善, 1997 年 10 月。
- (論述)「炉辺漫談: この“能面”を観よ——小津映画の“地を這う”視点から観た志賀文学と日本的“私”」, 29～39 頁。
- (論述)「Ⅰ白樺派文学と私小説」^{コメント}論評, 52～58, 60～62, 64～65 頁。
- (論述)「Ⅱ白秋と茂吉の歌」^{コメント}論評, 117～118 頁。
- (論述)「Ⅲ日本近代詩と中原中也——自然観の変遷」^{コメント}論評, 143～147 頁。
- (論述)「Ⅳ芥川文学と一九二〇年代の美術と文学」^{コメント}論評, 195～196 頁。
- (論述)「Ⅴ総括討議・大正期から昭和初期の文学と芸術」^{コメント}論評, 239～244 頁。
9. (共著) 河上倫逸監修『21 世紀の必読書 100 選』, 『あうろーら』特別号, [大阪] 21 世紀の関西を考える会, 2000 年 12 月。
- (執筆)「『二重言語国家・日本』, 石川九楊著」, 287～291 頁。
10. (共著) 中谷猛・川上勉・高橋秀寿編『ナショナル・アイデンティティ論の現在——現代世界を読み解くために』, [京都] 晃洋書房, 2003 年 3 月。
- (執筆) 第 6 章「中国, 中華民族, 中国人の国家観念・民族意識・“国民自覚”」, 115～142 頁。
11. (共編著) 西川長夫・大空博・姫岡とし子・夏剛編著『グローバル化を読み解く 88 のキーワード』, [東京] 平凡社, 2003 年 4 月。
- (執筆)「孫正義 vs. 松下幸之助」, 162～164 頁。
- (執筆)「ユニクロ」, 271～273 頁。
12. (共編著) 徐勝・松野周治・夏剛編著『東北アジア時代への提言——戦争の危機から平和構築へ』, 平凡社, 2003 年 7 月。
- (執筆) 編者後書^{あとがき}「広域“共栄・共嬴”への道」, 305～310 頁。
- (校閲・訳注) 張蘊嶺・朴珖姫共著, 下野寿子訳「東北アジア地域経済協力の進展と未来」, 139～159 頁。
13. (共著) 竹内實主編, 程麻訳補『中国近現代論争年表』, [北京] 中国文聯出版社, 2005 年 7 月。
- (共同執筆) 辻田正雄・萩野脩二・夏剛「1985 文学」, 856～897 頁。
- 14 (共編著) 松野周治・徐勝・夏剛編著『東北アジア共同体への道——現状と課題』, [東京] 文眞堂, 2006 年 3 月。
- (執筆) 第 7 章「“東北アジア共同体”結成の求心力と遠心力——“文化縁・文化溝・文化力”に即した考察」, 145～179 頁。
- (共同執筆)「はしがき」「後記」, i～iii, 246～249 頁。
15. (共編著) 西口清勝・夏剛編著『東アジア共同体の構築』, [京都] ミネルヴァ書房, 2006

年 8 月。

(執筆) 第 7 章「“東アジア共同体”構築の隘路と進路——中国の政治文化と日本の企業文化を手掛りに」, 170～196 頁。

(共同執筆)「まえがき」, i～xx 頁。

(校閲) 林今淑著, 金向東訳「中朝国境貿易の現状及び国境地域の社会・経済に対する影響」, 48～59 頁。

(校閲) 陳宜中著, 嚴太権訳「兩岸関係に関するポスト国族主義的思考」, 180～202 頁。

16. (共著) 蔡建国等著『東亜和平与発展』, 蔡建国主編『同済亜太論叢 5』, [上海] 同済大学出版社, 2008 年 9 月。

(執筆)「以“文温”促進中日相互理解的思路及方策」, 392～407 頁。

17. (共訳・部分単著) 趙啓正著, 夏剛・永井麻生子訳『中国はコミュニケーション・ギャップをこう乗り越える 対外交流心得 98 章 (中日対照版)』, [京都] かもがわ出版, 2012 年 4 月 (原著 = 『在同一世界——面对外国人 101 題』, [瀋陽] 遼寧教育出版社, 2007 年 8 月)。

(共訳)「自序」, 「致日本読者 / 日本の読者の皆様へ」, 本文 (1～98 章), 2～5, 6～9, 20～199 頁。

(執筆)「私たちは理解・習得・応用の障碍をどう乗り越えるか——中日対照版後記」, 200～251 頁。

(執筆)「訳注」, 252～319 頁。

(執筆)「表記等の凡例及び編集上の留意点の説明」, 320～328 頁。

(執筆)「原著者紹介」, 330 頁。

18. (共著) 富岡幸一郎・紅野謙介編, [東京] 野間宏の会 (代表・黒井千次) 協力『文学の再生へ 野間宏から現代を読む』, [東京] 藤原書店, 2015 年 11 月。

(討論者)「〈シンポジウム〉野間宏のコスモロジー 中村真一郎+小田実+俳優三国連太郎+生命誌中村桂子+比較文学夏剛 (司会) 紅野謙介, パネルディスカッション」(第 2 回「野間宏の会」, 1994 年 1 月 22 日, 日本出版クラブ会館), 365～386 頁。初出 = 『野間宏の会会報』第 2 号, 1994 年 12 月, 19～49 頁。

(執筆)「〈シンポジウムを終えて〉随想」, 390～391 頁。初出 = 同上文献, 54～56 頁。

論 文

1. (単著)「日本国内日語考試方法評介」, 『外語選刊』(黒龍江大学『外語選刊』編輯部) 1982 年第 2 期, 4 月, 47～51, 58 頁。

2. (单著)「在靈与肉的搏鬥中昇華——『綠化樹』的“心靈辨証法”」,『当代作家評論』1984年第3期,5月,27~31頁。
3. (单著)「通向成熟之路 論野間宏」,中国社会科学院研究生院修士課程卒業學位論文,全48頁。
4. (单著)「点睛還須精工筆——漫談日本文学作品題目翻訳問題」(筆名=求道),『日語学習与研究』([北京] 对外經濟貿易大学『日語学習与研究』編輯委員会,『日語学習与研究』雜誌社)1984年第6期,11月,59~60,50頁。
5. (单著)「折射的歷史之光——《腊月·正月》縱横談」,『当代作家評論』1985年第1期,1月,37~44頁。
6. (单著)「潮汐的騷動——1984年中篇小說巡礼」,『当代作家評論』1985年第3期,5月,47~56頁。
7. (单著)「芥川獎五十年回顧」,『外国文学動態』(中国社会科学院外国文学研究所編,中国社会科学出版社)1986年第2期,2月,42~48頁。
8. (单著)「等待深入開拓的土地——關於性愛題材的美学觀察」,『文学自由談』([天津]『文学自由談』編輯部,百花文芸出版社)1986年第2期,3月,40~49頁。
9. (单著)「当代啓示錄——高行健話劇世界面面觀」,『当代作家評論』1986年第2期,3月,47~57頁。
10. (单著)「無主題變奏:中国夢尋——对1985年中短篇小說的散点透視」,『当代作家評論』1986年第3期,5月,4~16頁。
11. (单著)「十年:世紀的衝刺——对“劫後文学”的双焦点透視」,『当代作家評論』1986年第5期,9月,42~57,41頁。
12. (单著)「語文学批評——当代小說研究断想」,『文芸研究』([北京]『文芸研究』編輯部,文化芸術出版社)1986年第6期,11月,40~47頁。
13. (单著)「十年:世紀的衝刺——对“劫後文学”的双焦点透視(続)」,『当代作家評論』1986年第6期,11月,60~70頁。
14. (单著)「批評的尋“根”」,『北京文学』([北京]北京文学月刊社)1987年第1期,1月,73~74,80頁。
15. (单著)「八十年代日本純文学小說」,『外国文学評論』([北京]外国文学評論編輯部,中国社会科学出版社)1987年第1期,2月,57~65頁。
16. (单著)「文学的当代意識:一種歷史和審美的跨度」,『上海文論』(中国作家協會上海分会·上海社会科学院文学研究所,『上海文論』編輯部)1987年第2期,3月,47~49頁。
17. 「炉辺閑話:1986中国小說品格批評」,『当代作家評論』1987年第2期,3月,96~103頁。
18. (单著)「浅談三好達治」,『外国文学欣賞』([長沙]『外国文学欣賞』編輯部,『外国文学欣

- 賞』出版社) 1987 年第 2 期, 4 月, 15~17 頁。
19. (單著)「傷逝: 從“俗界”到“佛界”和“魔界”——川端康成文學境界及其理念內核的嬗變」, 『上海文論』1987 年第 3 期, 5 月, 75~83 頁。
20. 「“魔界”的の魔力——當代中國文學中的川端康成」, 『萌芽』([上海] 萌芽雜誌社) 1987 年第 4 期, 4 月, 24~26 頁。
21. (單著)「從『白色的巨塔』到『兩個祖國』——論山崎豐子的社會派長篇小說」, 『外國文學研究』([武昌] 華中師範大學『外國文學研究』編輯部, 外國文學研究出版社) 1987 年第 2 期, 6 月, 57~61, 112 頁。
22. (單著)「『細雪』雜誌」, 『書評』([上海] 『書訊報』增刊, 書訊報社) 1987 年第 1 期, 8 月, 44~47 頁。
23. (單著)「未開拓的土地——セックス題材に関する美學觀察」(和訳=萩野脩二), 『季刊中國研究』([東京] 社團法人中國研究所) 第 8 号, 1987 年 9 月, 65~79 頁。
24. (單著)「天國之門——『罪與罰』的形而上世界」, 『上海文論』1988 年第 1 期, 1 月, 57~62 頁。
25. 「智者千慮——芥川龍之介的悲劇」, 『外國文學欣賞』1988 年第 1 期, 2 月, 25~28 頁。
26. 「自新世界: 我的“轉向”宣言」, 『當代作家評論』1989 年第 2 期, 3 月, 23~33 頁。
27. (單著)「“文革”後的中國文學と日本の戦後文學」, 『文學』([東京] 岩波書店) 第 57 卷第 3 号, 1989 年 3 月, 38~71 頁。
28. (單著)「炉邊漫談: この“能面”を觀よ——小津映画の“地を這う”視点から觀た志賀文學と日本的“私”」, 第 5 回日本研究國際セミナー '90「日本の近代文學と芸術——大正期~昭和初期」(福岡ユネスコ協會, 1990 年 10 月 30 日, 福岡市中央区天神・天神ビル 11F 大ホール) 提出, 同セミナー論文集, 1~125 頁; 同協會作成單獨冊子, 1991 年 7 月, 1~148 頁。
29. 「城山三郎の世界に見る“働き蜂”の諸相——中國の視圈から覗いて」, 第 2 回京都國際セミナー「安定期社會における人生の諸相——仕事と余暇」, 1991 年 1 月 9 日, 京都ゼミナールハウス(京都府北桑田郡京北町)。藤井讓治・横山俊夫編, 財団法人京都ゼミナールハウス(主催機関)發行記録集(同題), 3 月, 109~120 頁。
30. (單著)「“生”へ肉迫する仕事——猪瀬直樹のインタビュー・ノンフィクションの全解説」, 猪瀬直樹『日本凡人伝 死をみつめる仕事』, 新潮文庫, 1991 年 5 月, 233~254 頁。
31. (單著)「失題: バベルの塔の廢墟に立って」, 『立命館國際研究』(立命館大學國際關係學會) 6 卷 3 号, 1993 年 12 月, 182~198 頁。
32. (單著)「日・中・ソ『小学生心得(守則)』に見る國民性」, 『立命館言語文化研究』(立命館大學國際言語文化研究所) 第 6 卷第 3 号, 1994 年 12 月, 169~196 頁。
33. (單著)「中國・日本の文化斷層の一考察——電話・対面の流儀と二人称代名詞を巡って」,

- 『立命館言語文化研究』7巻1号, 1995年9月, 99~119頁。
34. (単著)「天声・天命・天時(抄)」, 『あうろーら』創刊3号, 21世紀の関西を考える会, 1996年5月, 242~255頁。
35. (単著)「劫・劫波の数・趨^{すう}：歴史の環・節と日中間の“板塊”^{プレート}移変・異変考」, 『立命館国際研究』11巻2号, 1998年12月, 1~19頁。
36. (単著)「失われた祖型を求めて——日中礼法の研究：序説(上)」, 『立命館言語文化研究』第10巻第3号, 1998年12月, 51~76頁。
37. (単著)「失われた祖型を求めて——日中礼法の研究：序説(中)」, 『立命館言語文化研究』第10巻第4号, 1999年1月, 101~127頁。
38. (単著)「失われた祖型を求めて——日中礼法の研究：序説(下)」, 『立命館言語文化研究』第10巻第5・6合併号, 1999年2月, 103~139頁。
39. (単著)「生^{ゆう}於^{かん}憂患^{にしょうじて}, 死^あ於^ん安楽^{らくにしする}」：当代日中指導者の緊張感の比較, 『立命館国際研究』11巻3号, 1999年3月, 107~127頁。
40. (単著)「戦略的思考—志向を巡る現代日・中“文化溝”^{カルチャー・ギャップ}(観念・視野篇)」, 『立命館国際地域研究』(立命館大学国際地域研究所)第14号, 1999年3月, 169~195頁。
41. (単著)「天降大任”出類拔萃”“不辱君命”：指導者の歴史責任感・使命感(上)」, 『立命館国際研究』12巻1号, 1999年6月, 43~60頁。
42. (単著)「戦略的思考—志向を巡る現代日・中“文化溝”^{カルチャー・ギャップ}(史観・閱歴篇)」, 『立命館言語文化研究』第11巻第3号, 1999年12月, 37~50頁。
43. (単著)「天降大任”出類拔萃”“不辱君命”：指導者の歴史責任感・使命感(中)」, 『立命館国際研究』12巻2号, 1999年12月, 89~109頁。
44. (単著)「中国的な国家・民族自覚を巡って(上)」, 『立命館言語文化研究』第11巻第4号, 2000年2月, 43~56頁。
45. (単著)「天職・天驕”意識と“權威・虎威”志向：指導者の条件」, 『立命館国際研究』12巻3号, 2000年3月, 193~211頁。
46. (単著)「了却天下事・贏得身後名”只争朝夕・常懷千歳憂”：指導者の自意識と強迫観念(1)」, 『立命館国際研究』13巻1号, 2000年7月, 53~71頁。
47. (単著)「中国的な国家・民族自覚を巡って(中)」, 『立命館言語文化研究』第12巻第2号, 2000年9月, 157~174頁。
48. (単著)「廢墟・混沌への光：歴史・生命衝動の表現・超越の可能性——中ハシクシゲ『あなたの時代』に即して(上)」, 『立命館言語文化研究』第12巻第3号, 2000年11月, 221~232頁。
49. (単著)「王・民之大欲・大恐”：指導者の自意識・強迫観念と中国人の精神伝説の深層(序

- 論)』、『立命館国際研究』13巻2号, 2000年12月, 65~84頁。
50. (単著)「“王・民之大欲・大恐”:指導者の自意識・強迫観念と中国人の精神伝説の深層(序論・続)」、『立命館国際研究』13巻3号, 2001年3月, 239~258頁。
51. (単著)「『日本礼法入門』の中心と“空心”(中空):日中の礼法・観念の比較の一断面(1)」、『立命館国際研究』14巻1号, 2001年6月, 61~77頁。
52. (単著)「日本の中空・“頂空”(頂点の空虚)と中国的“中控・頂控”(中心・頂点に由る支配)——『日本礼法入門』を手掛りとする両国の言説・観念の一比較(1)」、『立命館言語文化研究』第13巻第2号, 2001年9月, 71~83頁。
53. (単著)「『日本礼法入門』の中核と中空:日中の礼法・観念の比較の一断面(2)」、『立命館国際研究』14巻2号, 2001年10月, 71~86頁。
54. (単著)「『日本礼法入門』の中核と中空:日中の礼法・観念の比較の一断面(3)」、『立命館国際研究』14巻3号, 2001年12月, 71~87頁。
55. (単著)「日本の中空・“頂空”(頂点の空虚)と中国的“中控・頂控”(中心・頂点に由る支配)——『日本礼法入門』を手掛りとする両国の言説・観念の一比較(2)」、『立命館言語文化研究』第13巻第3号, 2001年12月, 185~196頁。
56. (単著)「日本の中空・“頂空”(頂点の空虚)と中国的“中控・頂控”(中心・頂点に由る支配)——『日本礼法入門』を手掛りとする両国の言説・観念の一比較(3)」、『立命館言語文化研究』第13巻第4号, 2002年2月, 211~222頁。
57. (単著)「“儒商・徳治”の道:理・礼・力・利を軸とする中国政治の統治文化(1)」、『立命館国際研究』14巻4号, 2002年3月, 27~48頁。
58. (単著)「現代中国の統治・祭祀の“冷眼・熱風”に対する“冷看・熱読”——“迎接新千年”盛典を巡る首脳と“喉舌”の2重奏と其の底流の謎解き(1)」、『立命館言語文化研究』第14巻第1号, 2002年5月, 151~165頁。
59. (単著)「“儒商・徳治”の道:理・礼・力・利を軸とする中国政治の統治文化(2)」、『立命館国際研究』15巻1号, 2002年6月, 73~97頁。
60. (単著)「“儒商・徳治”の道:理・礼・力・利を軸とする中国政治の統治文化(3)」、『立命館国際研究』15巻2号, 2002年10月, 45~82頁。
61. (単著)「現代中国の統治・祭祀の“冷眼・熱風”に対する“冷看・熱読”——“迎接新千年”盛典を巡る首脳と“喉舌”の2重奏と其の底流の謎解き(2)」、『立命館言語文化研究』第14巻第3号, 2002年12月, 149~171頁。
62. (単著)「共産党中国の4世代指導者の“順時計演変(時計廻りの移行)——理・礼・力・利を軸とする中国政治の統治文化新論(1)」、『立命館国際研究』16巻1号, 2003年6月, 49~100頁。

63. (单著)「時間観念を巡る日中の“文化溝”^{カルチャー・ギャップ}の考察とデジタル時代に於ける伝統回帰の展望(上)」,『立命館国際研究』16巻2号,2003年10月,75~104頁。
64. (单著)「“M(毛沢東)感覚・C(中国)感覚”と“J(日本)感覚・I(国際)感覚”の多変数:地球化時代の東北亜細亜を読み解く新機軸の試掘——88の鍵言葉^{キーワード}の横串を糸口に(序説1)」,『立命館言語文化研究』第15巻第3号,2004年2月,163~176頁。
65. (单著)「9.11^{ナインイレブン}恐怖襲撃の様々な既視感(I)」,『立命館国際研究』16巻3号,2004年3月,95~154頁。
66. (单著)「9.11^{ナインイレブン}恐怖襲撃の様々な既視感(II)」,『立命館国際研究』17巻1号,2004年6月,43~88頁。
67. (单著)「“9.11”の既視感と《超限戦》の曲径幽处——中共軍事新潮及中華智術根基初探(之一)」,『立命館国際研究』17巻2号,2004年10月,79~133頁。
68. (单著)「中日の政治文化・国際戦略に見る東亜共同体の可能性・方向性(上)」,『立命館国際研究』17巻3号,2005年3月,87~137頁。
69. (单著)「中国走向霸權軍国的危險性与和平崛起的安全閥(上)」,『立命館国際研究』18巻1号,2005年6月,217~260頁。
70. (单著)「中国走向霸權軍国的危險性与和平崛起的安全閥(中)」,『立命館国際研究』18巻2号,2005年10月,41~78頁。
71. (单著)「小泉拜鬼:文化層面的剖析」,『世界知識』([北京]世界知識出版社)2005年第23期,12月,20~27頁。
72. (单著)「対小泉首相参拝靖国神社問題的深層分析和長期展望」,『立命館国際研究』18巻3号,2006年3月,167~190頁。
73. (单著)「由中国軍事新思考、霸權軍事化的危險性及安全閥的危險性展望兩岸關係、東北亜安保」,『立命館国際地域研究』第24号,2006年3月,53~85頁。
74. (单著)「中国走向霸權軍国的危險性与和平崛起的安全閥(下)」,『立命館国際研究』19巻1号,2006年6月,89~133頁。
75. (单著)「中日社会、文化多面比較:風土、国情篇——地縁人文層次的考察(1)」,『立命館言語文化研究』第18巻第1号,2006年8月,71~129頁。
76. (单著)「中日社会、文化多面比較:風土、国情篇——地縁人文層次的考察(2)」,『立命館言語文化研究』第18巻第2号,2006年11月,119~172頁。
77. (单著)「中日社会、文化多面比較:風土、国情篇——地縁人文層次的考察(3)」,『立命館国際研究』19巻2号,2006年10月,107~156頁。
78. (单著)「“全球(グローバル)化”時代の“発展中(途上)大国”・中国の光と影——総合的国力・社会問題の諸相と展望」,『立命館国際研究』19巻3号,2007年3月,235~261頁。

79. (单著)「日本对華観の深層情結和心結」,『世界知識』(中華人民共和国外交部[外務省]主管,世界知識出版社主辦[主宰],『世界知識』編輯部編集・出版)2007年第9期,5月,24~27頁。
80. (单著)「中日社会、文化多面比較:風土、国情篇——地縁人文層次的考察(4)」,『立命館国際研究』20卷1号,2007年6月,23~85頁。
81. (单著)「中日社会、文化多面比較:風土、国情篇——地縁人文層次的考察(5)」,『立命館国際研究』20卷2号,2007年10月,29~100頁。
82. (单著)「以“文温”輔“經熱”、融“政冷”:増進中日相互理解的治本之路」,『立命館国際研究』20卷3号,2008年3月,77~112頁。
83. (单著)「中日社会、文化多面比較:風土、国情篇——地縁人文層次的考察(6)」,『立命館国際研究』21卷1号,2008年6月,57~110頁。
84. (单著)「中日社会、文化多面比較:風土、国情篇——地縁人文層次的考察(7)」,『立命館国際研究』21卷2号,2008年10月,23~81頁。
85. (单著)「從国家標志的意識—形態及權力結構的機制—特征比較中国、日本及世界的“中控・頂控”与“中空・頂空”(1)」,『立命館国際研究』22卷1号,2009年6月,19~88頁。
86. (单著)「從称谓“魔杖”管窺中国政要心迹及中国社会規則——《晚年周恩来》、《毛沢東私人医生回憶録》、《毛家湾紀実》、《国家的囚徒》、《大紅灯籠高高掛》等禁域・深宮話語聯析(上)」,『立命館国際研究』22卷2号,2009年10月,25~100頁。
87. (单著)「從紅日高昇到夕陽垂落:毛沢東“神壇”語迹的盛衰荣枯」,『立命館文學』(立命館大学人文学会)第615号,2010年3月,232~250頁。
88. (单著)「汶川巨震的地縁伏線:神州“龍脈”・禍根交織的傑・劫結節——汶川劫難、阪神劇震史鑑合鏡対照之一」,『立命館経済学』(立命館大学経済学会)第58卷第5・6号,2010年3月,272~299頁。
89. (单著)「“国躰・地心”聚藏的“原震”宿命:中日多難興邦歷程的表徴——汶川劫難、阪神劇震史鑑合鏡対照之二」,『立命館国際研究』22卷3号,2010年3月,53~91頁。
90. (单著)「從称谓“魔杖”管窺中国政要心迹及中国社会規則——《晚年周恩来》、《毛沢東私人医生回憶録》、《毛家湾紀実》、《国家的囚徒》、《大紅灯籠高高掛》等禁域・深宮話語聯析(中)」,『立命館国際研究』23卷1号,2010年6月,25~106頁。
91. (单著)「“毛沢東情結”と“北京情結”——当代中国的政治文化の根底の基本線・中軸線(上)」,『立命館国際研究』23卷2号,2010年10月,23~55頁。
92. (单著)「“毛沢東情結”と“北京情結”——当代中国的政治文化の根底の基本線・中軸線(中)」,『立命館国際研究』23卷3号,2011年3月,17~41頁。
93. (单著)「“毛沢東情結”と“北京情結”——当代中国的政治文化の根底の基本線・中

- 軸線（下）」、『立命館国際研究』24 卷 1 号，2011 年 6 月，31～66 頁。
- 94.（单著）「従称谓“魔杖”管窺中国政要心迹及中国社会規則——《晚年周恩来》、《毛沢東私人医生回憶録》、《毛家湾紀実》、《国家的囚徒》、《大紅灯籠高高掛》等禁域・深宮話語聯析（下之 1）」、『立命館国際研究』24 卷 2 号，2011 年 10 月，41～82 頁。
- 95.（单著）「従称谓“魔杖”管窺中国政要心迹及中国社会規則——《晚年周恩来》、《毛沢東私人医生回憶録》、《毛家湾紀実》、《国家的囚徒》、《大紅灯籠高高掛》等禁域・深宮話語聯析（下之 2）」、『立命館国際研究』24 卷 3 号，2012 年 3 月，1～48 頁。
- 96.（单著）「欲求層次基困・機微面面觀：個人・族群之行為志向・興味指向的極致原理及機制規律試掘（《中日社会、文化多面比較：生活、行為篇——日常光景機微解析》緒論之 1・上）」、『立命館国際研究』25 卷 1 号，2012 年 6 月，121～166 頁。
- 97.（单著）「欲求層次基困・機微面面觀：個人・族群之行為志向・興味指向的極致原理及機制規律試掘（《中日社会、文化多面比較：生活、行為篇——日常光景機微解析》緒論之 1・下）」、『立命館国際研究』25 卷 2 号，2012 年 10 月，37～85 頁。
- 98.（单著）「诡异暗合：历史人物生卒、历史事件发生日时中含天命・天意、天理・天道的天数・天机——中共双重诞辰、中国多輪演進變幻所隱現的“時環天数・劫結天机”論考之一」、『立命館国際研究』25 卷 3 号，2013 年 3 月，251～303 頁。
- 99.（单著）「劫結難逃：“時環史緣”的變數・定數交織和“人環情緣”的榮辱・盛衰轉換——中共双重诞辰、中国多輪演進變幻所隱現的“時環天数・劫結天机”論考之二」、『立命館国際研究』26 卷 1 号，2013 年 6 月，75～114 頁。
- 100.（单著）「中、日之間及各自内部的“語溝・語通”、“語緣・語環”諸相縱論（1）」、『立命館国際研究』26 卷 2 号，2013 年 10 月，43～85 頁。
- 101.（单著）「破底超限：薄熙來事變之“逆世流危搏”的教訓（一）」、『立命館国際研究』26 卷 3 号，2014 年 2 月，1～45 頁。
- 102.（单著）「中国的な“鮮烈”と日本的な“^{まろ}円やか”——両国の言語・文化の特質の一端（1）」、『立命館国際研究』26 卷 4 号，2014 年 3 月，217～234 頁。
- 103.（单著）「言語・辞書の“鏡”に見る日本・中国の国情・心性・文化の諸相と異同（序説 1）」、『立命館国際研究』27 卷 1 号，2014 年 6 月，35～59 頁。
- 104.（单著）「中国語の奥秘 日本語の機微——辞書の語釈・用例に見る両言語の表情と国情（1）」、『立命館国際研究』27 卷 2 号，2014 年 10 月，1～27 頁。
- 105.（单著）「中国語の奥秘 日本語の機微——辞書の語釈・用例に見る両言語の表情と国情（2）」、『立命館国際研究』27 卷 3 号，2015 年 2 月，1～26 頁。
- 106.（单著）「“新興国・老大国”の蹉跌と試練——2011.7.23（中共“90 歳誕生日”）高速鉄道追突・転落事故の衝撃と啓示」、『立命館国際研究』27 卷 4 号，2015 年 3 月，173～205 頁。

107. (単著)「“新興国・老大国”の蹉^{さてつ}跌と試練(続1)——“王八蛋工程”^{バカヤローこうじ}“571(武起義^{クーデター})工程”に窺^{けいかく}えた“先軍党国”の劣化・変質」,『立命館国際研究』28巻1号,2015年6月,53~91頁。
108. (単著)「中共上層部の暗闘・妥協と自民党派閥の抗争・融合(1)」,『立命館国際研究』28巻2号,2015年10月,51~83頁。
109. (単著)「“対”^{ついで}の要諦^{ようてい}——中国思想の心髄(1)」,『立命館経済学』第64巻第4号,2016年2月,3~27頁。
110. (単著)「辞書に見る日・中の国柄(1)」,『立命館国際研究』28巻3号,2016年2月,1~16頁。
111. (単著)「辞書に見る日・中の国柄(2)」,『立命館国際研究』28巻4号,2016年3月,41~59頁。
112. (共著)夏剛・夏冰「囲碁の“酷”と人智の“魔”——究極の頭脳競技^{ゲーム}の原理と中・韓・日・人工^A智能^I4強の特質・行方(1)」,『立命館国際研究』29巻1号,2016年6月,1~43頁。
113. (共著)夏剛・夏冰「囲碁の“酷”と人智の“魔”——究極の頭脳競技^{ゲーム}の原理と中・韓・日・人工^A智能^I4強の特質・行方(2)」,『立命館国際研究』29巻2号,2016年10月,1~56頁。
114. (共著)夏剛・夏冰「囲碁の“酷”と人智の“魔”——究極の頭脳競技^{ゲーム}の原理と中・韓・日・人工^A智能^I4強の特質・行方(3)」,『立命館国際研究』29巻3号,2017年2月,13~75頁。
115. (単著)「言語の異同に見る日中の“文化縁”と“文化^{カルチャー・ギャップ}溝”(1)」,『立命館国際研究』30巻1号,2017年6月,1~18頁。
116. (共著)夏剛・夏冰「相克相生と栄枯盛衰——国際化・人工智能制覇時代の囲碁の変容と不易(1)」,『立命館国際研究』30巻2号,2017年10月,35~80頁。
117. (共著)夏剛・夏冰「相克相生と深奥幽玄——囲碁・棋史の情理と妙趣(1)」,『立命館国際研究』30巻4号,2018年3月,45~79頁。
118. (単著)「毛沢東の呪縛と習近平の“超限戦”——古今の“盛衰興亡周期律”と中国の行方(1)」,『立命館国際研究』31巻1号,2018年6月,79~132頁。
119. (単著)「毛沢東の呪縛と習近平の“超限戦”——古今の“盛衰興亡周期律”と中国の行方(2)」,『立命館国際研究』31巻2号,2018年10月,1~60頁。
120. (共著)夏剛・夏冰「碁源——天授の盤上遊戯・人智競技(1)」,『立命館国際研究』31巻3号,2019年2月,1~54頁。
121. (単著)「毛沢東の呪縛と習近平の“超限戦”——古今の“盛衰興亡周期律”と中国の行方(3)」,『立命館国際研究』31巻4号,2019年3月,95~124頁。
122. (単著)「辞典に見る日・中の国柄(3)」,『立命館産業社会論集』(立命館大学産業社会学会)第55巻第1号,2019年6月,17~27頁。

123. (単著)「習近平の原点と“^{あかいDNA}紅色基因”——毛沢東・鄧小平への継承・超越 (1)」,『立命館国際研究』32巻1号,2019年6月,1~90頁。
124. (単著)「習近平の原点と“^{あかいDNA}紅色基因”——毛沢東・鄧小平への継承・超越 (2)」,『立命館国際研究』32巻2号,2019年10月,1~85頁。
125. (単著)「受難の歲月 求道の歷程 (1)」,『立命館国際研究』32巻4号,2020年3月,1~94頁。
126. (共著)夏剛・夏冰「相克相生と深奥幽玄——囲碁・棋史の情理と妙趣 (2)」,『立命館国際研究』32巻4号,2020年3月,279~320頁。

ノート 研究筆記

1. 「日本の俳句と中国の古典詩歌」,『黒龍江大学日本語学部 77 級生 作文選 (第一集)』,黒龍江大学日本語学部,1981年10月,91~100頁。
2. 「辛い国・甘い国」,『国際関係学部 Newsletter』(立命館大学国際関係学部研究・学会委員会編集・発行)第11号,1995年7月,10~13頁。
3. 「^{しはおのれをしるもののためにしす}士為知己者死:理解・礼節の“^{lijie}軟実力”としての効用——^{ソフト・パワー}小木裕文先生ご退職に寄せる体験的な中国文化・異文化理解論」,『国際関係学部 Newsletter』第43号(小木裕文教授退職記念号),2015年3月31日,13~31頁。
4. 「悲劇と笑劇,悲願と“笑願”」,『立命館国際研究』31巻2号,2018年10月,50~59頁(前掲「毛沢東の呪縛と習近平の“超限戦”——古今の“盛衰興亡周期律”と中国の行方 [2]」の附録として)。初出=『国際関係学部 Newsletter』第49号,2018年7月10日,12~22頁。

文芸評論

1. (単著)「太陽,太陽,我对你説」,『青年文学』([北京]『青年文学』雑誌社,中国青年出版社)1985年第10期,10月,74~75頁。
2. (単著)「沈寂,是下一輪爆發的前奏嗎?」,『小説選刊』([北京]小説選刊編輯委員会編,小説選刊雑誌社)1987年第4期,4月,126~127頁。
3. (単著)「あしたは“あした”の風が吹く」,俳誌『あした』(俳諧・連歌結社「あした」)1988年9月号,14~21頁。文末に筆者が創作に加わった「付勝歌仙 春の水の巻 冬男捌き(昭和63年2月21日首尾 於東京江東区芭蕉記念館)」の記録が有る(20~21頁)。猶,

同誌 2008 年 10 月号に再録 (37～40 頁)。

4. (単著)「張芸謀 屈折した赤光」,『03』(新潮社)1990 年 6 月号, 140 頁。
5. (単著)「考える人の厳粛な綱渡り」,『Diatax』(芸術関連参照情報批評誌, 京都芸術センター)
ハイパーリンク
創刊号, 2000 年 6 月, 73～75 頁。
6. (単著)「“碑林” 礼賛」,『あした』39 卷 7 号, 2006 年 7 月, 12～21 頁。同誌 2008 年 10 月号に再録 (62～71 頁)。

インタビュー・ノン・フィクション 口述実録文学

1. 夏剛(執筆)・田星(取材協力)「青春の墓標」(「一 從“鷹”到“鴿”:一位日本“老造反” YUPPIES 追憶流水年華」「二 没有翅膀的天使:一位“灰姑娘”大学生尋找“二十歲的原点”」),『在“網幕”背後——四十七位日本人的独白』選載,『中外文学』([瀋陽] 春風文芸出版社編集・発行)1988 年第 6 期, 11 月, 4～31 頁。
2. 夏剛(執筆)・田星(取材協力)「溫柔的光——“当代風俗最前線”上一位業余歌手的羅曼史和剖白」,大型超紀実文学『日本人:在“網幕”背後』第七章之一,『中外文学』1989 年第 2 期, 3 月, 4～23 頁。

寄稿・書評等

1. 「応是“万里尋母記”」(筆名=流星),『北京晚報』(夕刊紙, [北京]『北京日報』系列)1984 年 4 月 7 日。
2. 「第 92 届芥川賞揭曉」,『文芸報』(週刊紙, [北京] 中国作家協会主管)試刊号, 1985 年 4 月 20 日。
3. 「井上靖的抱負」(筆名=剛), 同上。
4. 「新老之間——八十年代前半期日本純文学回顧 (一)」,『文芸報』第 15 期, 1986 年 4 月 12 日。
5. 「山崎豊子の新作『大地の子』問世」(筆名=流火),『外国文学評論』1987 年第 4 期, 8 月。
6. (単著)「奇人奇書:安部公房的《櫻花方舟》」(筆名=流火),『外国文学評論』1988 年第 1 期, 132～133 頁。
7. 「“原色”の夢を尋ねて 常識にとらわれず“翔んで!”」,『毎日新聞』1988 年 1 月 21 日, 「日本を語る」
コラム
短評欄。

8. 「“冷眼向洋看世界” 竹内実編『転形期の中国』評, 『蒼蒼』(〔東京〕蒼蒼社) 第22号, 1988年10月, 12~15頁。
9. 「中国文壇の“川端フィーバー”」, 『本』(〔東京〕講談社), 1989年1月号, 36~39頁。
10. 「『おくの細道』を漢訳して」, 『あした』1989年7月号, 14~16頁。
11. 「ラブ・ストーリー」, 京都工芸繊維大学『学園だより』(京都工芸繊維大学学園だより編集委員会) 第63号, 1990年4月, 16~17頁。
12. 「陳凱歌 “自伝”であり“他伝”でもある『私の紅衛兵時代』」, 『03』1990年10月号, 152頁。
13. 「莊生曉夢迷蝴蝶」, 『京都新聞』1991年1月1日, 各界50人の「1991年 私のキーワード」。
14. 「書評 戸張東夫著『映画で語る中国・台湾・香港』」, 『東亜』(〔東京〕財団法人霞山会) 1991年11月号, 112頁。
15. 「“無欲”と“大欲”の間」, 『毎日新聞』1992年1月1日, 「明日を占う」特集。
16. 「失題 退官の挨拶に代えて」, 京都工芸繊維大学『学園だより』第68号, 1992年1月, 5頁。
17. 「連環記——表層への戯れ」, 『日本近代文学』(日本近代文学会) 第46集, 1992年5月, 54~55頁。
18. 「“誠”と“勝手”」, 『京都新聞』1992年6月3日, 「水曜ふおうらむ」^{コラム}短評欄。
19. 「生々死々」, 新井秋芳句集『雲の恋』(あした叢書 句集シリーズ 第二集), あしたの会, 1992年7月, 6~7頁。
20. 「玩物喪志 難しい無為の境地」, 『毎日新聞』1994年4月9日, 「世の中探見」^{コラム}短評欄「上昇から水平へ—安定期社会の人間学—②」。
21. 「比較文化研究特集編集後記」, 『立命館言語文化研究』第10巻第5・6合併号, 1999年2月, 189~198頁。
22. 「編集後記(兼第4の書評・評の評・研究会活動の回顧と展望)」, 『立命館言語文化研究』第11巻第3号, 1999年12月, 183~202頁。
23. 「編集後記に代えて——誌上講評」^{コメント}, 『立命館言語文化研究』第12巻第3号, 2000年11月, 153頁。
24. 「有恒産者有恒心, 有恒心者有恒産」, 『立命館大学国際地域研究所ニューズレター』Vol. 27, 2002年5月, 3~7頁。
25. 「“秋風秋雨愁殺人”——痛悼中村福治先生」, 『国際関係学部 Newsletter』中村福治教授追悼号, 2005年1月27日, 14~16頁。
26. 「三見山崎: 胡耀邦対日外交之風範」, 『世界知識』2005年第24期, 12月, 22~23頁。後に『作家文摘』(週刊紙, 中国作家協会主管・〔北京〕中国作家出版集団主編〔主宰〕)・〔北京〕

「胡耀邦信息資料網」・[香港]「鳳凰網」等に転載。

27. 「対立目立つ日中両国政府 “文温” で“政冷・経涼” 融かせ」, 『京都新聞』「論考」欄, 2006 年 1 月 20 日。
28. 「温家宝総理在立命館大学交流側記」, 『世界知識』2007 年第 9 期, 5 月, 28～29 頁。
29. 「中国語のプロからのアドバイス 最強の CJ 活用法」, 『中国語ジャーナル』([東京] アルク社) 2008 年 4 月号, 51 頁。
30. 「従阪神観照汶川」, 『世界知識』2008 年第 12 期, 6 月, 25～27 頁。
31. 「東京：走向奧運会的曲折歷程」, 『世界知識』2008 年第 15 期, 8 月, 60～61 頁。
32. 「アルファ碁の衝撃」, 『週刊碁』([東京] 日本棋院機関紙) 2016 年 4 月 18 日。
33. 「愉悅・達観・逍遙^{しょうよう}」, 『国際関係学部 Newsletter』第 52 号, 2020 年 3 月 19 日, 1～3 頁。

翻訳・編訳

1. (共訳) 森村誠一『隠蔽の射線』, 田星・夏剛訳, 『外国小説』([ハルビン^{ハルビン}]『哈爾濱文芸』増刊「日本小説専号(特別号)」, 『哈爾濱文芸』編集部, 哈爾濱文芸出版社) 1981 年第 5 期, 7 月, 48～61 頁。原作＝森村誠一『殺意の架橋』(短篇), 短篇集『科学的管理法殺人事件』, 角川文庫([東京] 角川書店), 1975 年, 88～134 頁。
2. (単訳) 森村誠一『失去の溪谷』, 『日本文学』([長春] 日本文学編集部編, 吉林人民出版社刊) 1985 年第 1 期, 1～3 月(季刊, 出版時期未記載), 167～192 頁。原作＝森村誠一『文学賞殺人事件』, 同題短篇小説集, [東京] 産経新聞社出版局, 1971 年, 4～37 頁。
3. (単編訳)「日本評論家、作家談“原爆文学”」, 『外国文学動態』1985 年第 11 期, 11 月, 19～23 頁。
4. (共訳) 竹内実「転折期的精神」, 張謙・夏剛訳(両者の単訳が編集部の判断に由り合成), 『批評家』([太原] 中国作家協会山西分会, 批評家雜誌社) 第 4 卷第 1 期, 1988 年 1 月, 83～87 頁。原作＝竹内実「“転形期”の精神——“墮落論”と“情欲論”」, 竹内実・萩野脩二編著『中国文学最新事情——文革, そして自由化のなかで』(サイマル出版会, 1987 年 2 月), 296～314 頁。
5. (単訳) 李芒「後記 象徴的に詠まれた中国遊吟記」, 『あした』2003 年 1 月号, 13～17 頁; 『宇咲冬男のヨーロッパにおける俳句と連句の交流と作品の軌跡』, [東京] 宇咲冬男事務所, 2005 年 3 月, 205～209 頁。原作＝李芒『後記』, 宇咲冬男等著, 李芒訳『中国遊吟俳句集——宇咲冬男暨「明天」志友作品精選』, [南京] 訳林出版社, 1997 年 1 月, 136～143 頁。

フォーラム
講演・論壇討論・座談等（記録公刊・学内役職関連の分）

1. （討論者）^{パネリスト}「新時期文学十年歴史経験」討論会（中国作家協会遼寧分会・上海分会共催），1986年7月9～16日，大連市旅順口某所。ト曙明（構成）「在蟬蛻、裂変中更新、完善——“新時期文学十年歴史経験”討論会紀要」，『当代作家評論』1986年第5期，11月，58，62頁。
2. （座談）「青年批評家自省」座談会，1986年7月17日，〔瀋陽〕薈萃賓館。王緋整理（構成）「青年批評家自省（座談会）」，『文学自由談』1986年第6期，11月，45～47頁。
3. （座談）「反思新時期文学十年」座談会，1986年11月6日，『文学評論』（中国社会科学院文学研究所『文学評論』編輯部，中国社会科学出版社）編集部。譚湘整理「面向新時期第二個文学十年的思考——『文学評論』召開小型座談会紀要」，『文学評論』1987年第1期，1月，44，46頁。
4. （座談）「革命歴史題材小説創作」座談会，1986年11月16～18日，『解放軍文芸』（〔北京〕解放軍文芸編輯部，解放軍文芸出版社）編集部。本刊（誌）記者整理「書庫・1986・關於戦争文学的対話——革命歴史題材小説創作座談会紀要」，『解放軍文芸』1987年第1期，1月，4，12～13，16～17頁。
5. （演説）^{スピーチ}「オアシスの素顔を大切に」，京都国際文化協会主催「世界歴史都市会議記念 外国人による日本語弁論大会」入選，1987年10月31日，京都会館会議場。『弁論要旨集』，京都西ライオンズクラブ，12月，13頁。
6. （鼎談）萩野脩二（三重大大学教授）・辻田正雄（〔京都〕仏教大学講師）・夏剛「中国の当代文学を語り合う」，1987年12月25日，佛教大学辻田研究室。田星整理「当代中国文学隔岸観」，『当代文学評論』1988年第2期，26～38頁。同年に文学批評選刊（既刊の文学評論の秀作を精選・掲載する専門誌）に全文採録された（誌名等の情報は要特定）。
7. （討論者）^{パネリスト}京都府文化フォーラム「京都文化の可能性を探る」第3回「文化創造の外部要因——国際化・異文化交流～国際化の中での京都」，1989年6月3日，京都市府民ホールアルティ。『第3回京都府文化フォーラム記録』，京都府文化芸術室，1989年11月，11～15，34，39～40頁。
8. （講演）「インタビュー・ノンフィクションの可能性——猪瀬直樹著『日本凡人伝』を手掛りに」，第12回日文研フォーラム，1989年6月13日，国際交流基金京都支部。国際日本文化研究センター編集・発行，10月，1～39頁。
9. （討論者）^{パネリスト}A・B・Cセッション「昭和10年代の文学と芸術」「戦争期の文学をめぐって」「戦後の文学をめぐって」^{コメント}論評，第6回日本研究国際セミナー'91「日本の近代文学と芸術（昭和期—戦前・戦中・戦後）」，福岡ユネスコ協会，1991年10月22～23日，福岡市中央区天神・

天神ビル 11F 大ホール。『FUKUOKA UNESCO』(福岡ユネスコ協会編集・発行)第 27 号(同セミナー特集), 1992 年 5 月, 39~41, 77~78, 106~107 頁。

10. (報告・討論者) ^{パネリスト}平安建都 1200 年記念グランド・フォーラム「伝統と創生—新しい MIYABI をデザインする」(「伝統と創生フォーラム」実行委員会・財団法人平安建都 1200 年記念協会主催, 1994 年 10 月 25~27 日, 国立京都国際会館), 第 2 セッション「歴史的展望 みやこの背景—潜在する文脈」。『会議記録』, 財団法人平安建都 1200 年記念協会, 1995 年 3 月, 39~40, 45~47, 63~65 頁。河合隼雄・森谷剋夫監修, 松岡正剛構成『平安建都 一二〇〇年記念 伝統と創生フォーラム集成』, 淡交社, 1995 年 9 月, 「京都をほりなおす」, 189~190, 196~199, 215~217 頁。
11. (講演)「中・日時間感覚の比較」, けいはんなマラソンセミナー『人間・生物・時間』第 5 回研究会「さまざまな時間を求めて」, 1994 年 6 月 26 日, [京都・大阪・奈良] 関西文化学術研究都市・けいはんなプラザ。記録冊子, 株式会社けいはんな, 1995 年 2 月, 22~24 頁。
12. (話題提供)「中国人の時間・日本人の時間」・^{ディスカッション}(討議) 株式会社けいはんな設立 5 周年記念公開セミナー「時間の森へ——マラソンセミナー『人間・生物・時間』が贈る対話・体感・実験のひとつとき」, 1995 年 3 月 4 日, けいはんなプラザ。記録集, 1995 年 8 月, 9~15 頁; 報告書, 1996 年 2 月, 9~16, 29~31, 39~41 頁。
13. (鼎談) 堀場雅夫(株式会社堀場製作所取締役会長)・菊山紀彦(宇宙開発事業団特任参事)・夏剛「21 世紀を拓くために, われわれはどう行動すべきか」, 社団法人京都経済同友会創立 50 周年記念・第 96 回関西地区経済同友会会員懇談会「“照顧却下”——関西から 21 世紀を拓く」, 1998 年 6 月 5 日, 国立京都国際会館メインホール。『京都経済同友会会報』No.155, 1998 年 10 月, 29~32, 37~38, 40~41, 43~44 頁。
14. (講演)「今様日中文化比較アラカルト——中国語を学ぶ人のために」, 2001 年 4 月 20 日, 日本中国友好協会京都府連合会第 27 期中国語教室開講式。『日中友好新聞』(同会) 第 1913・1915 号(9 月 5・25 日)連載。
15. (講演)「生活風景の中の^{カルチャー・キャップ}“文化溝”——衣・食・住・行における日中文化の比較」, 立命館土曜講座第 2612 回, 2002 年 9 月 21 日, 立命館大学以学館。立命館大学人文科学研究所『立命館土曜講座シリーズ』14『日中国交回復 30 周年—日中の過去・現在・未来—』, 2002 年 12 月, 55~106 頁。
16. (話題提供)「文化の壁を如何に越えるか」・討議, 第 21 回「'03 比叡会議」(日本 IBM 主催, ^{テーマ}主題「中国とは何か」), 2003 年 12 月 12~13 日, 京都ロテル・ド・比叡。同会議報告書『中国とは何か』, 日本アイ・ビー・エム株式会社比叡会議事務局, 2004 年 5 月, 37~51, 105~106 頁。
17. (講演)「“東北アジア共同体”の理想・現実・展望——政治・経済・文化面からの考察・

接近」，立命館土曜講座第 2683 回，2004 年 6 月 5 日。

18. (報告)「辺境としてのアジア」，第 15 回日本記号学会大会（統一主題「^{テーマ}多文化主義の記号論」），1995 年 5 月 14 日，横浜市開港記念館。
19. (講演)「“^{インターネット}国際互聯網”の新しい水平——〈あした〉私観と宇咲俳句の再発見」，「あしたの会」平成 16 年度大会，2004 年 6 月 12 日，東京都北区王子の北とぴあ，『あした』同年 9 月号，10～27 頁。同誌 2008 年 10 月号に再録（44～61 頁）。
20. (講演)「上海的“巧實力”（smart power）——上海・上海人の特質に見る安定・発展の志向・本領」，2009 年度同済大学・立命館孔子学院合同セミナー「上海万博と日中経済事情」，2010 年 1 月 22 日，立命館大学大阪オフィス。
21. (講演)「“魔都”から“魅都”へ——成熟して国際先端都市に向う上海」，2010 年度同済大学・立命館孔子学院合同セミナー「ポスト上海万博と都市発展」，2010 年 12 月 17 日，立命館大学大阪オフィス。
22. (退職記念講演)「受難の歲月 求道の歷程」，2020 年 1 月 14 日，立命館大学恒心館（前掲の同題論文はこれを基と為る）。

^{シンポジウム} 研究討論会報告・研究会発表等

1. (研究報告)「同時代中国にとって川端康成とは何か」，現代中国研究会公開研究会，1987 年 9 月 17 日，京都大学楽友会館。
2. (研究発表)「“私文学”の発想と日本的“私”」，国際日本文化研究センター「日本文学と“私”」共同研究班，1987 年 10 月 27 日。
3. (研究発表) *Postwar Japanese Literature and Chinese Literature after the Culture Revolution : An Attempt at Comparison*，第 33 回国際東方学会議，1988 年 5 月 1 日，都内某所。『国際東方学会議紀要』第三十三冊，125 頁。
4. (研究報告)「中国的発想・日本的発想」，現代中国研究会公開研究会，1988 年 6 月 25 日，仏教大学四条センター。
5. (研究発表)「“私ノンフィクション”の表現原理——川端康成『名人』と沢木耕太郎『一瞬の夏』をテキストに」，国際日本文化研究センターシンポジウム「もう一つの“私”——変身・分身・重層する自我」，1989 年 12 月 2 日。
6. (研究発表)「百年の孤独：露伴私観——『運命』を中心に」/ (討議)「北村透谷と幸田露伴をめぐって」/「二葉亭四迷と夏目漱石をめぐって」/「日本近代文学の一特色——自然観の変遷と“女性”の発見」/「日本の近代文学と芸術——明治期を中心に」，第 4 回日本研究

- 国際セミナー'89「日本の近代文学と芸術」，福岡ユネスコ協会，1989年11月27日，福岡市中央区天神・福岡銀行本店10階ホール。『FUKUOKA UNESCO』第25号，1990年6月，22～43/51～61/86，90，92～93/115～118，122～124/138～139頁；福岡ユネスコ協会編『世界が読む日本の近代文学』，丸善，1996年8月，69～70，72，136～138，193～194頁。
7. (研究発表)「金聖嘆の自我から見た幸田露伴の“私”と中国的自我・日本的“私”——『杜詩解』と『評釈芭蕉七部集』を手掛りに」，国際日本文化研究センター「日本文学と“私”」共同研究班，1990年8月4日。
8. (研究報告)「別有幽情暗恨生：天安門事件以降の中国文芸に見る“無抵抗の抵抗”」，現代中国研究会公開研究会，仏教大学四条センター，1991年6月22日。
9. (研究発表)「メビウスの輪：^{おび}“私”と“我”の連環を巡って——散点的“連環体”の考察の試み」，国際日本文化研究センター「日本文学と“私”」共同研究班，1991年7月24日。
10. (研究発表)「中国人の闘争心と日本人の“一团和氣”——値段の交渉を巡る一考察」，立命館大学比較文化研究会，1994年7月23日。
11. (研究報告)「“儒商・徳治”の道：理・礼・力・利を軸とする中国政治の統治文化」，アジア政経学会西日本部会年会，2001年6月23日，[大分]立命館アジア太平洋大学。
12. (研究発表)「孫正義とユニクロ：経営者・企業の^{グローバル}“全球”化」，立命館大学比較文化研究会，2001年7月27日，立命館大学修学館。
13. (研究発表)「中国の暴走・覇権大国化は有り得るか：非対称戦・新^{テロ}恐怖戦争を含む中国空軍筋の破天荒な^{シミュレーション}想定・提言——『^{グローバル}全球化時代の超限戦』を手掛りに」，立命館大学国際関係学部研究会，2001年11月20日，恒心館。『立命館国際研究』14巻4号，2002年3月，118～119頁。
14. (研究発表)「中国的な国家観念・民族意識・^{アイデンティティ}国民自覚」，立命館大学国際言語文化研究所プロジェクトB I ナショナル・アイデンティティ研究会，2001年11月24日，立命館大学末川会館。
15. (研究発表)「現代日本の時間を観察する」，けいはんなマラソンセミナー「人間・生物・時間」研究会，2002年11月22日，京都大学大学院地球環境学堂「三才学林」。
16. (研究報告)「中国の覇権大国化・軍事的暴走の危険要素と自己制御の安全装置」・討議，^{ソウル}[漢城]韓国発展研究院(KDI)大学院・立命館大学国際地域研究所共催国際ワーク・ショップ「北東アジア平和・繁栄の諸条件」，2003年8月19～20日，韓国発展研究院大学院ambassador Hall7階。
17. (研究報告)「“文化縁・文化溝・文化力”——東北亜細亜の融合の可能性と障碍の一側面」，中国社会科学院日本研究所・立命館大学国際地域研究所共催国際シンポジウム「東北アジア地域協力への道——基礎条件と展望」，2004年10月30日，中国社会科学院日本研究所国際

会議室。

18. (研究報告)「中国の政治文化と日本の企業文化に見る東亜細亜の方向性・可能性」, 立命館国際地域研究所主催国際シンポジウム「東アジア共同体の構築を目指して」, 2005年1月22日, 立命館大学創思館。
19. (研究報告)「由中国軍事新思考、覇権軍国化的危険性及安全闊展望台海兩岸關係及東北亜安保」, [台北] 国立台湾大学社会科学院・立命館大学国際地域研究所共催国際^{シンポジウム}研討会「東北亜之台湾与兩岸關係」, 2005年7月30日, 台湾大学社会科学院第1会議室。報告論文集, 1～32頁。
20. (研究報告)「日中間の生活習慣の相違と意思疎通の障碍」, 日本比較生活文化学会西日本定例研究会, 2007年4月吉日, 立命館大学諒友館。
21. (研究報告)「^{グローバル}“全球化”時代の“発展中(途上)大国”・中国の光と影」, 立命館大学国際関係学部途上国研究会, 2006年11月30日。
22. (研究報告・^{パネリスト}討論者)「以“文温”輔“経熱”, 融“政冷”: 増進中日相互理解的治本之路」, [上海] 同済大学^{アジア}太平洋研究中心主催国際^{センター}研討会^{シンポジウム}「構築中日戦略互惠關係和促進民間相互理解」, 2007年11月17～18日, 同済迎賓館。
23. (研究発表)「中国語の人称代名詞の“魔杖”に見る日中言語・文化の異同」, 立命館孔子学院「日中言語のずれに関する研究会」, 2011年10月28日。

インタビュー 面談取材記事等

1. 「夏剛さん 現代中国公開研究会 中国で川端ブーム / 作家ら文体まねる」(京), 『朝日新聞』1987年9月26日, 「なにわ手帳」^{コラム}短評欄。
2. 「夏剛さん / 日本人的“私”は絹のカーテン / 薄く不透明で美しい」(聞き手 小倉貞男編集委員), 『讀賣新聞』1990年4月7日, 「はじめまして」^{コラム}短評欄。
3. 「京都文化紳士録(6人) 沢木, 猪瀬のノンフィクションを研究中 夏剛 京都工芸繊維大学助教授」(文・刈部謙一, 撮影・M.HASUI), 『03』1990年5月号, 『京都——永遠の前衛都市』特集, 29頁。
4. 「肖像1990～KYOTO ◇49 / 日本文学研究者 夏剛さん(35) / 二十世紀の中国を執筆 “遺書のつもり…”」(馬), 『朝日新聞』京都版1990年4月19日。
5. 「日本文学研究者 夏剛さん(36) / 二十世紀の中国を執筆 “遺書のつもり…”」(森北), 朝日新聞京都支局編『京都の肖像 21世紀への100人』, 淡交社, 1991年3月, 110～111頁。
6. 「老若男女が学ぶ中国語の殿堂 孔子学院が教える学習のコツ / 中国語学習の最大の難関

は“発音”」,『週刊ダイヤモンド』([東京]ダイヤモンド社)2011年1月8日新春号(特集「今年こそ英語&中国語」),63~64頁。

その他文筆活動

1. (随筆)「激動の歳月」「五重塔」「豊太郎と私の世界」,『黒龍江大学日本語学部77級生作文選(第一集)』,1981年10月,22~26,137~138,145~146頁。
2. (散文詩)「雑感五則」,『中国社会科学院研究生院一九八三年五四征文競賽獲獎作品集』,研究生院团委・学生会編,1983年6月,13頁。
3. (編著)「京都工芸繊維大学工芸・繊維大学1989・90年度一般教育・文学 記念文集」,1991年4月1日。「美しい日本の中の私——夏剛のプロフィール」(10~16頁),「夏剛の『能面』」(44~46,47 [A~K],48 [A~B] 49 [A~C] 頁),「夏剛の『片腕』」(71頁),「夏剛のもう一つの『恋物語』」(114~116頁),「忘れ得ぬ人々——総評に代えて」(117~132頁),「我儘な所感:工織大での授業を振り返って」(150~152頁),「編集後記」(153~158頁),「講評」(随所)。
4. (策劃 [考案]・脚本執筆)第1届世界孔子学院論壇(立命館孔子学院・立命館亞洲太平洋孔子学院主辦,2007年5月9~12日,立命館大学以学館)記念大学生文芸汇演『多元文化共生』(11日),「【起】百花齊放,千客万来 / 【承】衆音共鳴,多元和諧——響き合う調和 / 【転】超越障碍,合力通天——バベルの塔への超越 / 【合】継往開来,共創前程——新たな出発へ」4部(中国語・日本語)。『第一屆世界孔子学院論壇 / 第一回世界孔子学院フォーラム報告書』,立命館孔子学院,122~129頁。

テレビ出演・取材協力

1. (出演)読売テレビ「激論 ばらだいま'91」,「不思議な国 ニッポン どこが悪い!? “大国”ニッポン」(司会=猪瀬直樹,深夜~未明6時間に亘った生放送),1991年春(手元の録画には日付は記載されず,全国紙の縮刷版も東京版を用い大阪から発信の当該番組は予告欄に無い。内容や広^{コマーシャル}告の情報から湾岸戦争勃発[1月17日]~5月前半の間と推定される)。
2. (出演)KBS京都テレビ「京のまち」,「外国人に聞く日本の心・言葉」,1994年3月13日。
3. (出演,司会者との対談)KBS京都テレビ「ハッスルワイド 時事放談」,「米騒動」,1994年4月4日。

4. (出演) 同上, 「レジャー」, 1994 年 5 月 2 日。
5. (出演) 同上, 「外国人から見た京都」, 1994 年 6 月 6 日。
6. (出演) 同上, 「就職戦線」, 1994 年 7 月 4 日。
7. (出演) 同上, 「ヌード写真」, 1994 年 8 月 8 日。
8. (出演) 同上, 「戦争と平和」, 1994 年 9 月 5 日。
9. (出演) 同上, 「広島アジア大会」, 1994 年 10 月 3 日。
10. (出演) 同上, 「銃社会」, 1994 年 11 月 7 日。
11. (出演) 同上, 「ペット事情」, 1994 年 11 月 28 日。
12. (出演) 同上, 「ドーピング汚染」, 1994 年 12 月 5 日。
9. (出演) KBS 京都テレビ「平安建都 1200 年グランドフィナーレ・今始まる未来の夢」, 「京都活性化をめざす大討論会」, 1994 年 12 月 31 日。
10. (出演) KBS 京都テレビ「ハッスルワイド 時事放談」, 「大学の在り方」, 1995 年 1 月 9 日。
11. (取材協力) NHK テレビ「スペシャル 作家 山崎豊子～戦争と人間を見つめて～」, 2015 年 9 月 27 日。
12. (取材協力) NHK テレビ「スペシャル ～絵書記 遺 (のこ) された声 日中国交 45 年目の秘史～」, 2017 年 9 月 23 日。
13. (出演) NHK テレビ「かんさい熱視線」, 「そして名作は生まれた—山崎豊子『大地の子』誕生秘話」, 2017 年 10 月 6 日。

附記

1. 退職記念講演・特別寄稿「受難の歲月 求道の歷程」で取り上げた「文化大革命」等の影響を伝える為に、略歴は変則的な在学期間や非文化的な職歴も敢えて詳細に記した。
2. 論著の内に相当の比重を占めた中国語使用の部分は原文が本土の簡体字を用いているが、本目録は日本で発表するので、日本及び台湾・香港・澳門乃至新嘉坡等でも通用する漢字を使う。
3. 講演・座談・討論等の記録集所載の頁は、夏剛の言説の部分に限る。
4. 著述の保管・記録に無頓着の所為で若干の散逸が有り、極一部の所載頁・日付・会場等は確認できず欠落や曖昧の儘と為る。